

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	上越公務員・情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養専門課程	こども保育幼稚園科	夜・通信	270 時間	240 時間	
	事務・ビジネス総合科	夜・通信	489 時間	160 時間	
	公務員科	夜・通信	202 時間	160 時間	
	公務員速修科	夜・通信	120 時間	80 時間	
	公務員・法律行政科	夜・通信	202 時間	160 時間	
	公務員専攻科	夜・通信	120 時間	80 時間	
商業実務専門課程	医療秘書・事務科	夜・通信	165 時間	160 時間	
	医療事務・くすり科	夜・通信	165 時間	160 時間	
	ビジネスライセンス科 (医療事務コース)	夜・通信	93 時間	80 時間	
	ビジネスライセンス科 (情報ライセンスコース)	夜・通信	85 時間	80 時間	
工業専門課程	情報システム科	夜・通信	1185 時間	160 時間	
	情報・ゲーム・デザイン科	夜・通信	1480 時間	240 時間	
	ゲーム・CGクリエイター科	夜・通信	1370 時間	240 時間	
	情報・ITビジネス大学併修科	夜・通信	1756 時間	320 時間	

備考： 留学生が入学、在学する学科は「国際・IT エンジニア科」とする。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ上に掲載。URL

<https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/20.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

該当学科なし。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	上越公務員・情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ上に掲載。URL
<https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/18.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2023年6月 1日～2027 年5月31日	政策的観点
非常勤	団体職員	2023年6月 1日～2027 年5月31日	教育統括的視点
非常勤	弁護士	2023年6月 1日～2027 年5月31日	法的観点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	上越公務員・情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

シラバスの作成に関しては、各学科の担任教員が専門分野の現状や社会ニーズなどを総合的に判断して毎年作成する。
次年度向けのシラバスを前年度末に作成し、教務部内の会議によるチェックと修正、修正確認の承認をもって完成とする。

具体的なスケジュールを次に示す。

- 2 - 3月：シラバス草案の作成
- 3 月：部内会議・シラバス修正
- 4 月：シラバスの公表 (HP への記載)
学生への告知

<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>科目ごとにホームページ上に掲載。</p> <p>こども保育幼稚園科 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/8.pdf</p> <p>事務・ビジネス総合科 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/9.pdf</p> <p>公務員科 / 公務員・法律行政科 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/10.pdf</p> <p>公務員速修科 / 公務員専攻科 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/11.pdf</p> <p>医療事務・くすり科 / 医療秘書・事務科 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/12.pdf</p> <p>ビジネスライセンス科 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/13.pdf</p> <p>情報システム科 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/14.pdf</p> <p>情報・ゲーム・デザイン科 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/15.pdf</p> <p>ゲーム・CGクリエイター科 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/23.pdf</p> <p>情報・ITビジネス大学併修科 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/21.pdf</p>
-------------------	---

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

学生への成績評価は以下に従って行う。

- 成績評価は原則として科目毎に評価する。
- 成績評価は、検定取得状況、授業態度、確認テスト、出席率、ホームワーク状況、修得試験等の資料によってなされ、本人の努力に関しても考慮する。
- 算出方法
 - a. 成績評価はA、B、C、Dの4段階とする。
 - b. 検定関連科目は、検定結果を中心に評価することもある。
 - c. 検定のない科目は試験・レポート等で評価する。
- 評価基準
 - a. 検定による評価を行う科目は、検定のたびにそれぞれ評価基準を決定する。
 - b. 検定結果によらない科目では、おおむね以下の基準に従って評価する。
 - A：科目に対する理解及び日常の授業態度が著しく優秀な者
 - B：科目に対する理解及び日常の授業態度が良好な者
 - C：科目に対する理解及び日常の授業態度がやや劣る者
 - D：(1)科目に対する理解が著しく劣る者
 - (2)出席率が80%未満の者
 - (3)繰り返し私語、居眠り、無断欠席を行うなど日常の授業態度が著しく劣る者
- 考査資格
科目終了時に、当該科目の出席率を集計し、80%以上の出席率のない者は考査の対象とならない。従って成績いかににかかわらず、D評価となり追試を受験することになる。
- 追試・認定試験
 - a. D評価の者は追試を行い学習の機会を与える。
 - b. 追試験に合格しない者は認定試験を受験する。認定試験に合格できなかった科目のある場合は卒業・進級を認めない。
 - c. 追試験・認定試験の合格者は原則としてC評価とする。
 - d. 追試験及び認定試験を受験する場合は相当額の受験料を納入する。
- 成績表
各期末に検定結果・学習理解度ならびに態度に応じて評価、作成し、保護者宛てに郵送する。

上記の成績評価方法は、入学時のオリエンテーションで学生へ説明を行う。また、学校のホームページ内に同内容を掲載し広く告知している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

<p>個々の学生の成績状況を客観的な指標で把握できるよう、各科目の評価を 100 点満点で点数化し、その合計点を科目数で割った平均点を基準にした成績分布を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の各科目の評価を 100 点満点で点数化し、その合計点を科目数で割った平均点をその学生の習熟度の指標とする。 ・算出された平均点は学校側の定めたクラス単位（基本は学科、学年ごと）で集計・グラフ化し、成績分布状況の把握に使用する <p>集計の際のクラス単位は以下のように定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども保育幼稚園科 各学年 ・事務・ビジネス総合科 各学年 ・公務員・法律行政科 各学年 ・公務員専攻科 ・医療秘書・事務科 各学年 ・ビジネスライセンス科 ・情報システム科 各学年 ・情報・ゲーム・デザイン科 ・ゲーム・CG クリエイター科 各学年 ・情報・IT ビジネス大学併修科 ・成績分布は年度の終わりに 1 年間の成績状況をもとに作成する。 ・成績分布の下位 4 分の 1 の学生に対しては、指導や警告などを行う場合がある。 	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページ上に掲載。 URL https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/16.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>本校における卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）を以下のように定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な専門知識を持ち、社会生活を円滑に営むコミュニケーション能力を有していること 2. グローバル社会の中で各業界にとどまらず、社会全体に貢献しようという熱意をもっていること 3. 自らの将来に壮大な夢を持ち、その実現に向けて邁進することができること <p>また、卒業基準を以下のように定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 出席率 80%以上（総出席時間の割合）。 b. 成績評価がすべて C 以上 c. 卒業基準検定の取得 <ul style="list-style-type: none"> b または c を満たせない者は同等レベルの認定試験を受験し合格しなければならない。なお、認定試験を受験する場合は相当額の受験料を納入する。 d. カレッジリーグ・フィールドワーク・プログラム（C. F. P）の規定点数以上の取得（C. F. P の詳細については下記 URL を参照） 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>ホームページ上に掲載。 URL https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/16.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	上越公務員・情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ上に掲載。 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/3.pdf
収支計算書又は損益計算書	ホームページ上に掲載。 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/3.pdf
財産目録	ホームページ上に掲載。 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/3.pdf
事業報告書	ホームページ上に掲載。 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/19.pdf
監事による監査報告（書）	ホームページ上に掲載。 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/3.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		商業実務 専門課程	医療秘書・事務科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1753 時間	1227 時間	474 時間	45 時間	0時間	0時間
		1753時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		23人	0人	1人	1人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 医療環境の変化において活躍できる人材育成を目的とする。基本的な診療報酬請求知識・技術の習得を目標とし、問題解説、自宅学習を合わせ長期記憶となるよう反復学習を実施する。
成績評価の基準・方法

(概要) 基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準
(概要) 出席率80%以上、成績評価C評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要なCFPポイントの取得。
学修支援等
(概要) ・本人への電話、SNS等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (%)	0人 (%)	17人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 医療事務、クリニック、医院受付など			
(就職指導内容) 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 医療事務管理士(医科・歯科)、診療報酬請求事務能力認定試験(医科) 調剤事務管理士、介護事務管理士、医療秘書技能検定、医事コンピュータ技能検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用		

1. 「

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	商業実務 専門課程	医療事務・くすり科	○	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1753 時間	1227 時間	474 時間	45 時間	0時間	0時間
			1753時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	31人	0人	1人	1人	2人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 医療環境の変化において活躍できる人材育成を目的とする。基本的な診療報酬請求知識・技術の習得を目標とし、問題解説、自宅学習を合わせ長期記憶となるよう反復学習を実施する。
成績評価の基準・方法
（概要）基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準
（概要）出席率80%以上、成績評価C評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要なCFPポイントの取得。
学修支援等
（概要）・本人への電話、SNS等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 （ %）	0人 （ %）	0人 （ %）	0人 （ %）
（主な就職、業界等） 医療事務、クリニック、医院受付など			
（就職指導内容） 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 医療事務管理士（医科・歯科）、診療報酬請求事務能力認定試験（医科） 調剤事務管理士、介護事務管理士、医療秘書技能検定、医事コンピュータ技能検定			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	ビジネスライセンス科(医療事務コース)	—	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	870時間	585時間	285時間	時間	時間	時間
			900時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5人		0人	0人	1人	1人	2人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 多様化する国際社会のニーズに柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。基礎能力としてビジネス実務全般を学び、選択で基本的な診療報酬請求における専門的技術と理論を習得する。
成績評価の基準・方法
(概要) 基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準
(概要) 出席率80%以上、成績評価C評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要なCFPポイントの取得。
学修支援等

(概要) ・本人への電話、SNS等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4人 (100%)	0人 (0%)	4人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 医療業界（医療事務・歯科受付）、一般事務			
(就職指導内容) 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 調剤事務管理士、医療事務管理士、医療秘書技能検定、医事コンピューター技能検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	ビジネスライセンス科（情報ライセンスコース）	—	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	870 時間	625時間	245時間	時間	時間	時間
			870時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	

2人	2人	0人	1人	4人	5人
----	----	----	----	----	----

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）情報化・グローバル化の進む現代において、専門知識とビジネス知識を併せ持った人材を育成する。情報系国家資格の取得、ビジネスマナー、ビジネス知識を習得し、短期間での就職を目指す。
成績評価の基準・方法
（概要）基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準
（概要）出席率80%以上、成績評価C評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要なCFPポイントの取得。
学修支援等
（概要）・本人への電話、SNS等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) IT企業、販売店			
(就職指導内容) 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) ITパスポート、MicrosoftOfficeSpecialist検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		

(中退防止・中退者支援のための取組)
 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	公務員科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1773 時間	944 時間	689 時間	140 時間	時間	時間
			1773 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		10人	0人	1人	1人	2人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 公務員という公共の福祉に携わるための意義と心構えを意識し、公務員試験の合格を目標とする。一般知識・一般知能・適性試験を学習、ビジネス実務、コンピュータなどの実務科目も学び基本的な事務処理能力を身につけることを目的とする。
成績評価の基準・方法
(概要) 基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準
(概要) 出席率80%以上、成績評価C評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要なCFPポイントの取得。
学修支援等
(概要) ・本人への電話、SNS等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 国家公務員、都道府県職員、市町村職員、民間企業などを指す。			

(就職指導内容) 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導
(主な学修成果 (資格・検定等))
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	公務員速修科	—	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	890 時間	416 時間	372 時間	102 時間	時間	時間
			890 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10人		13人	0人	1人	1人	2人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 公務員という職に就くための意義を理解し、公務員試験の合格を目指す。企業への就職も視野に入れ、一般知識・一般知能・適性試験を学習、ビジネス実務、コンピュータなどの実務科目も学び実践的な事務処理能力を身につけることを目的とする。
成績評価の基準・方法
(概要) 基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準

(概要) 出席率 80%以上、成績評価 C 評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要な C F P ポイントの取得。
学修支援等
(概要) ・本人への電話、SNS 等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (%)	0 人 (0%)	0 人 (%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) 国家公務員、都道府県職員、市町村職員等を目指す。			
(就職指導内容) 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) Word・Excel 検定、簿記能力検定、社会人常識マナー			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	公務員・法律行政科	○	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1773 時間	944 時間	689 時間	140 時間	時間	時間
1773 時間							

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
20人	8人	0人	1人	1人	2人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）公務員という公共の福祉に携わるための意義と心構えを意識し、公務員試験の合格を目標とする。一般知識・一般知能・適性試験を学習、ビジネス実務、コンピュータなどの実務科目も学び基本的な事務処理能力を身につけることを目的とする。
成績評価の基準・方法
（概要）基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準
（概要）出席率80%以上、成績評価C評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要なCFPポイントの取得。
学修支援等
（概要）・本人への電話、SNS等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 （%）	0人 （%）	9人 （%）	0人 （%）
（主な就職、業界等） 国家公務員、都道府県職員、市町村職員、民間企業など			
（就職指導内容） 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） Word・Excel検定、簿記能力検定、社会人常識マナー			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	0人	0%

(中途退学の主な理由)
(中退防止・中退者支援のための取組) 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	公務員専攻科	—	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	890 時間	416 時間	372 時間	102 時間	時間	時間
			890 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10人		0人	0人	1人	1人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）公務員という職に就くための意義を理解し、公務員試験の合格を目指す。企業への就職も視野に入れ、一般知識・一般知能・適性試験を学習、ビジネス実務、コンピュータなどの実務科目も学び実践的な事務処理能力を身につけることを目的とする。
成績評価の基準・方法
（概要）基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準
（概要）出席率80%以上、成績評価C評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要なCFPポイントの取得。
学修支援等
（概要）・本人への電話、SNS等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (%)	0人 (%)	19人 (%)	0人 (%)

(主な就職、業界等) 国家公務員、都道府県職員、市町村職員
(就職指導内容) 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導
(主な学修成果(資格・検定等)) Word・Excel 検定、簿記能力検定、社会人常識マナー
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	1人	95%
(中途退学の主な理由) 生活態度の悪化。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		文化・教養専門課程	事務・ビジネス総合科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1795 時間	1417 時間	0 時間	378 時間	0 時間	0 時間
			1800時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		31人	0人	1人	4人	5人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 事務のスペシャリストとして、多様化する国際社会のニーズに柔軟に対応できる人材の育成を目的とします。基礎能力として、ビジネス実務全般を学び、更にオフィス事務・ブライダル・情報ビジネス分野における専門的技術と理論を習得し、個性や感性を磨くと共に、国際社会に即応できる人材を育成します。
成績評価の基準・方法
(概要) 基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準

(概要) 出席率 80%以上、成績評価 C 評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要な C F P ポイントの取得。
学修支援等
(概要) ・本人への電話、SNS 等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13 人 (100%)	0 人 (%)	13 人 (100%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) 一般事務・営業事務・総合職・ホテルフロント			
(就職指導内容) 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) ファイナンシャルプランナー検定、ビジネス文書検定、サービス接客検定、リテールマーケティング検定、簿記検定、MOS Word・Excel・PowerPoint			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業	工業専門課程	情報システム科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2 年	昼	1740 時間	1060 時間	680 時間	時間	時間
		1740 時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人	29 人	0 人	1 人	4 人	5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）コンピュータの基礎学習やプログラミング言語の基礎学習から始まり、基本情報技術者試験相当の知識を修める。 開発実習では数名でのチーム開発を行い、設計からテストまでを計画的に実行する。
成績評価の基準・方法
（概要）基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準
（概要）出席率80%以上、成績評価C評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要なCFPポイントの取得。
学修支援等
（概要）・本人への電話、SNS等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	19人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） IT企業、製造系企業のインフラエンジニア など			
（就職指導内容） 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、MicrosoftOfficeSpecialist			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38人	2人	5.2%
（中途退学の主な理由） 学業不振。		

(中退防止・中退者支援のための取組)
 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報ゲーム・デザイン科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2605 時間	1485 時間	時間	1120 時間	時間	時間
			2605 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人		2人	0人	2人	4人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) コンピュータの基礎学習やプログラミング言語の基礎学習から始まり、基本情報技術者試験相当の知識を修める。 開発実習では数名でのチーム開発を行い、設計からテストまでを計画的に実行する。
成績評価の基準・方法
(概要) 基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準
(概要) 出席率80%以上、成績評価C評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要なCFPポイントの取得。
学修支援等
(概要) ・本人への電話、SNS等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) システムエンジニア、Webクリエイター、データ製作、DTPオペレータなど			

(就職指導内容) 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、MicrosoftOfficeSpecialist
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ゲーム・CGクリエイター科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2645 時間	1155 時間	時間	1490 時間	時間	時間
		2645 時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人		37人	0人	2人	7人	9人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) コンピュータの基礎学習やプログラミング言語、3DCG制作の基礎学習から始まり、まずは基本情報技術者試験相当の知識を修める。 開発実習では数名でのチーム開発を行い、設計からテストまでを計画的に実行する。
成績評価の基準・方法
(概要) 基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準

(概要) 出席率 80%以上、成績評価 C 評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要な C F P ポイントの取得。
学修支援等
(概要) ・本人への電話、SNS 等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) システムエンジニア、Web クリエイター、データ制作など			
(就職指導内容) 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 基本情報技術者試験、MicrosoftOfficeSpecialist、E-typingMaster			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用、定期的な生活環境や学業全般に関する面談の実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士				
工業	工業専門課程	情報・IT 大学併修科	—	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	昼	3517 時間	2327 時間	時間	1190 時間	時間	時間	時間
			3517 時間					

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40人	9人	0人	2人	3人	5人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）コンピュータの基礎学習やプログラミング言語の基礎学習から始まり、基本情報技術者試験相当の知識を修める。 開発実習では数名でのチーム開発を行い、設計からテストまでを計画的に実行する。 また、簿記・会計、接遇についても学び、高度な事務処理能力の獲得を目指す。 さらに、大学の学習内容において、経営学、マネジメント、リーダーシップについて学び、リーダーとなるような人材となることを目指す。
成績評価の基準・方法
（概要）基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準
（概要）出席率80%以上、成績評価C評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要なCFPポイントの取得。
学修支援等
（概要）・本人への電話、SNS等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） システムエンジニア、プログラマー、Web マーケター、一般職など			
（就職指導内容） 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、MicrosoftOfficeSpecialist			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%

(中途退学の主な理由)
(中退防止・中退者支援のための取組) 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
教育・社会 福祉	文化・教養専門 課程	こども保育幼稚園科	○	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2825 時間	1555 時間	840 時間	430 時間	0 時間	0 時間
			2825 時間				
生徒総定員 数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	49人	0人	2人	0人	0人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）3年間の課程の中で乳幼児期から児童期までを見通して、総合教育科目や保育実践及び子育て支援にかかわる技能を学ぶ専門科目により、多様な保育ニーズに対応でき得る専門性を身に付ける。
成績評価の基準・方法
（概要）基準：A～Dの4段階 方法：検定結果、授業態度、確認テスト、出席率、課題実施状況、期末試験に基づく。
卒業・進級の認定基準
（概要）出席率80%以上、成績評価C評価以上、卒業基準検定を全て取得、卒業に必要なCFPポイントの取得。
学修支援等
（概要）・本人への電話、SNS等での連絡 ・保護者との連携 ・三者面談 ・家庭訪問

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9人 (100%)	0人 (0%)	9人 (100%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等) 私立保育園、障害者施設、認定こども園、病児保育所、福祉施設、一般企業
(就職指導内容) 就職部長より全学科指導とクラス担任による個別指導
(主な学修成果(資格・検定等)) 幼稚園教諭2種免許状、保育士資格、Word検定、Excel検定、コミュニケーション検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	1人	2.7%
(中途退学の主な理由) 注意欠如・多動性障害の症状(医師による診断)による学習の困難、及び対人関係の不安により退学。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 実践行動学による動機付け、就学状況に応じたカウンセリング、保護者との情報共有に基づく連携、外部産業カウンセラーの活用		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
こども保育幼稚園科	50,000 円	430,000 円	553,037 円	その他項目内訳 施設維持費、施設設備費 テキスト・試験料
事務・ビジネス総合科	50,000 円	550,000 円	553,037 円	その他項目内訳 施設維持費、施設設備費 テキスト・試験料
公務員科	50,000 円	550,000 円	553,037 円	その他項目内訳 施設維持費、施設設備費 テキスト・試験料
公務員速修科	50,000 円	550,000 円	553,037 円	その他項目内訳 施設維持費、施設設備費 テキスト・試験料
医療事務・くすり科	50,000 円	550,000 円	553,037 円	その他項目内訳 施設維持費、施設設備費 テキスト・試験料
ビジネスライセンス科	50,000 円	550,000 円	553,037 円	その他項目内訳 施設維持費、施設設備費 テキスト・試験料
情報システム科	50,000 円	550,000 円	553,037 円	その他項目内訳 施設維持費、施設設備費 テキスト・試験料
ゲーム・CGクリエイター科	50,000 円	520,000 円	553,037 円	その他項目内訳 施設維持費、施設設備費 テキスト・試験料
情報・IT ビジネス大学併修科	50,000 円	520,000 円	553,037 円	その他項目内訳 施設維持費、施設設備費 テキスト・試験料
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
ホームページ上に掲載。下記を参照。 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/1.pdf		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
<ul style="list-style-type: none"> ・評価項目 教育理念、学校運営、教育活動、教育成果、学生支援、教育環境、学生募集、財務、法令遵守、社会貢献、総括 ・委員会構成員 定員は2名とし、選出区分は企業等委員1名、卒業生1名とする。 現委員については直下の表を参照。 ・評価の活用 年度内に2回、評価委員会を開催する。 委員会での指摘事項は、教務部長、事務局長を通して職員に結果を通知し、学校・クラス運営、カリキュラムの見直しなどに活用する。 		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
上越商工会議所 青年部	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
上越地域消防事務組合	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
ホームページ上に掲載。下記を参照。 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/2.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

ホームページ上に掲載。下記を参照。 https://jjc-net.ac.jp/wp/wp-content/themes/jjc2020/common/pdf/2.pdf
--